

## 平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立晃宝小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。このような取組を通して、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成21年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### I 調査の概要

#### 1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

#### 2 調査期日

平成21年4月21日（火）

#### 3 調査対象

第6学年

#### 4 本校の参加状況

① 国語A	59人	国語B	59人
② 算数A	59人	算数B	59人

#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることを留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

## II 調査結果の概要

### 1 国語

#### 全体的な傾向

- ・ 国語A（知識）の平均正答率は全国平均や市の平均とほぼ同じである。正答数の分布状況は、市と同様15～18問正答（正答率約83%～100%）の割合が全国と比べて高いが、正答数9問（正答率50%以下）の割合も全国や市より高い。
- ・ 国語B（活用）の平均正答率は市と同様全国平均より高い。正答数の分布状況は、Aと同じ傾向である。

#### <分類・区分別集計結果>

##### 【国語A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率（%）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	1	72.9	69.2	68.0
	書くこと	4	84.3	87.3	85.4
	読むこと	2	69.5	70.6	68.7
	言語事項	12	62.9	63.3	64.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	72.9	69.2	68.0
	話す・聞く能力	1	72.9	69.2	68.0
	書く能力	4	84.3	87.3	85.4
	読む能力	2	69.5	70.6	68.7
	言語についての知識・理解・技能	12	62.9	63.3	64.2
問題形式	選択式	5	79.0	81.6	80.1
	短答式	12	64.8	65.3	65.9
	記述式	1	72.9	69.2	68.0

##### 【国語B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率（%）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	5	63.4	62.8	61.3
	書くこと	2	13.6	15.6	14.5
	読むこと	3	61.6	59.3	56.5
	言語事項	2	64.4	61.5	59.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	6	47.5	48.1	46.0
	話す・聞く能力	5	63.4	62.8	61.3
	書く能力	2	13.6	15.6	14.5
	読む能力	3	61.6	59.3	56.5
	言語についての知識・理解・技能	2	64.4	61.5	59.7
問題形式	選択式	2	68.6	67.8	65.8
	短答式	2	53.4	49.7	48.7
	記述式	6	47.5	48.1	46.0

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 分類・区分別の傾向と課題

### 【話すこと・聞くこと】

- A 領域の平均正答率は72.9%で、全国平均より4.9ポイント（市より3.7ポイント）高い。
- B 領域の平均正答率は63.4%で、全国平均より2.1ポイント（市より0.6ポイント）高い。しかし、「そうじや整とんによく取り組んでいる」とする立場から自分の考えを発表する設問の正答率は、20.3%と全国平均より5.4ポイント低く、自分の立場を明確にして考えを述べることに課題がある。

### 【書くこと】

- A 葉書きの表書きに必要な事柄を選択する設問の平均正答率は76.3%で、全国平均より9.3ポイント高いが、実験報告文の小見出しを選ぶ3題の設問の正答率の中には、全国平均より9.2ポイント低いものがあり、領域としてはやや低くなっている。
- B 領域の平均正答率は13.6%で、全国平均より0.9ポイント（市より2ポイント）低い。特に、報告文のまとめとして調べて分かったことを書く設問の正答率は11.9%と全国平均より5.8ポイント低く、B問題中最も正答率が低い。目的や意図に応じて事象や意見などを関係付けながら書くことに課題がある。

### 【読むこと】

- A 領域としては全国・市とほぼ同じであり、図鑑を読んで必要な内容をとらえる設問の平均正答率は81.4%で、全国平均より2.7ポイント高い。（市より1.2ポイント低い。）
- B 領域の平均正答率は61.6%で、全国平均より5.1ポイント、市より2.3ポイント高い。

### 【言語事項】

- A 領域の平均正答率は62.9%で、市や全国同様、他の領域と比較して最も低い。最も正答率が低かった設問は、接続語を使って一文を二文に分けて書く問題であったが、正答率は22%で市や全国よりは高かった。（市15.5%、全国14.7%）  
しかし、漢字の読みの「混雑」が全国より10.5ポイント、「採集」が15.6ポイント低く、「賛成」「運ぶ」の書き取りも、それぞれ8.8ポイント、6ポイント低い。漢字の習得に課題がある。
- B 領域の平均正答率は64.4%で、全国平均より4.7ポイント（市より2.9ポイント）高い。

### 【その他】

- A 無解答率は全国平均とほぼ同じであった。最も高かったのは、ローマ字の「happa」を読む問題で32.2%であった。（正答率は52.5%、全国平均正答率は51.9%）
- B 無解答率は全国平均より低かった。最も高かったのは、報告文を読みメモの中に調べた内容の一つ目を書く設問で、22%（正答率は15.3%、全国平均正答率は11.4%）であった。

### 《傾向》

- 「国語の勉強が好き」と回答した児童の割合は5ポイント、「国語の授業の内容がよく分かる」と回答した児童の割合は3.3ポイント全国平均より高い。(市の平均よりはやや低い。)
- 国語に関する質問においての肯定的な回答の割合が、全国や市の平均より低い傾向にある。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答した児童の割合は、全国平均より6ポイント(市の平均より12.3ポイント)、「国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」と回答した児童の割合は、全国平均より4.5ポイント(市の平均より11ポイント)低い。

### 指導改善のポイント

#### 【話すこと・聞くこと】

- ・ 自分の立場や意図をはっきりさせて話し合う能力を高められるように、事実と感想、意見などを区別しながら説明したり報告したりする言語活動を計画的に行う。

#### 【書くこと】

- ・ 目的や意図に応じて事象や意見などを関係付けながら書くことができるように、条件を指定した短作文を書くトレーニングを継続的に行う。
- ・ 自分の課題について調べ、意見を述べたり活動を報告したりする文章を書く学習では、構成や記述に関する指導を充実させ、メモの作成・箇条書き・小見出しをつけた文章の記述などを計画的に行う。

#### 【読むこと】

- ・ 文学的な文章の読解では、表現の工夫に着目して想像を豊かにしながら読むことができるように、叙述に即した読み物の指導を丁寧に行う。また、説明的な文章では、要点や要旨をとらえたり小見出しをつけたり要約したりする指導の充実を図る。

#### 【言語事項】

- ・ 学習した漢字が確実に定着するように児童の漢字に対する興味・関心を高めるとともに、反復練習の時間や量を確保したり、練習のさせ方を工夫したりする。また、豆テストの実施などを通して、児童が自己の伸びを実感できるような評価の方法を工夫する。
- ・ 接続語による前後の文のつながりや段落の関係について理解が深まるように、読解の指導の中での接続語の扱いを充実する。また、接続語に関する練習問題を用いてスキルアップを図る。

#### 【その他】

- ・ 国語の授業では、引き続き学校図書館司書の協力を得て、目的に応じた資料を準備し、学習に活用する。
- ・ 詩や物語、調べたことを報告した文章などの発表の場においては、相互評価の方法を工夫して認め合えるようにする。また、国語の授業で育成した能力が日常生活の中で生きて働くことを実感できるような機会を多くもつようにする。

## 2 算数

### 全体的な傾向

- 算数A（知識）の平均正答率は全国よりやや高く、市の平均正答率とほぼ同じである。60%近くの児童が15問以上の正答（正答率約83%～100%）となっている。
- 算数B（活用）の平均正答率はすべての領域で市より低く、全国よりも図形以外の領域で低い。正答数の分布状況は分散しており、約半数の児童が7問以下の正答（正答率50%以下）となっている。

### <分類・区分別集計結果>

#### 【算数A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と計算	9	84.4	84.4	82.8
	量と測定	3	79.7	78.4	78.5
	図形	3	81.4	82.7	81.3
	数量関係	3	67.2	67.0	64.2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての表現・処理	12	79.2	78.7	77.7
	数量や図形についての知識・理解	6	82.2	83.1	80.8
問題形式	選択式	5	80.3	81.7	76.7
	短答式	13	80.2	79.6	79.5
	記述式	0			

#### 【算数B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と計算	6	52.3	56.8	55.8
	量と測定	6	57.6	61.1	59.9
	図形	4	56.8	57.3	56.4
	数量関係	4	51.7	57.2	56.8
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	10	44.4	47.0	46.1
	数量や図形についての表現・処理	4	73.3	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	0			
問題形式	選択式	2	64.4	69.3	68.9
	短答式	7	61.5	64.4	63.7
	記述式	5	35.6	37.8	36.8

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

【数と計算】

- A 領域の平均正答率は市と同じ84.4%で他の領域と比較して高く、全国平均より1.6ポイント高い。数直線上に示された1万より大きい数を読み取る設問の正答率が市では61.7%と低いが、本校では71.2%で全国より7.1ポイント高い。
- A 100を45個集めた数を書く設問の正答率は、この領域の中で最も低く67.8%で、全国平均より5.5ポイント低い。数の構成の理解に課題がある。
- B 領域の平均正答率は52.3%で全国平均より3.5ポイント（市の平均より4.5ポイント）低い。

【量と測定】

- A 領域の平均正答率は79.7%で、全国平均や市の平均とほぼ同じである。
- A 方眼上の三角形の面積を求める式を書く設問の正答率は57.6%であり、全国平均より9.3ポイント（市の平均より5.6ポイント）低い。三角形の底辺と高さについて確実に理解することが課題である。
- B 領域の平均正答率は57.6%で他の領域よりはやや高いが、全国平均より2.3ポイント（市より3.5ポイント）低い。

【図形】

- A 領域の平均正答率は81.4%で、全国平均より0.1ポイント高い。（市よりは1.3ポイント低い。）
- A 三角形の内角の和が180度であることを基に、四角形の4つの角の大きさの和を求める式を書く設問では、正答率が64.4%と全国より3.5ポイント低く、無解答率が11.9%と高い。三角形の内角の和の理解と分かっていることを基に考えて説明することに課題がある。
- B 領域の平均正答率は56.8%で、全国平均より0.4ポイント高い。（市よりは、0.5ポイント低い。）

【数量関係】

- A 領域の平均正答率は67.2%で、全国平均より3ポイント（市より0.2ポイント）高い。特に、 $80 - 30 \div 5$ の計算の正答率は83.1%で、全国平均より16.3ポイント高い。
- A 人数の割合が全体の何%か選ぶ設問の平均正答率は45.8%で全国平均より11.1ポイント低く、百分率を求めることに課題がある。
- B 領域の平均正答率は51.7%で、全国平均より5.1ポイント（市の平均より5.5ポイント）低い。ペットボトルの重さの割合の大小関係をとらえて理由を書く設問の平均正答率は15.3%（全国は17.7%、市は19.2%）でたいへん低く、割合の大小関係を判断することと理由を記述することに課題がある。

【その他】

- B 数学的な考え方の平均正答率が44.4%と低い。（市より2.6ポイント、全国より1.7ポイント低い。）また、記述式の設問の平均正答率が35.6%と選択式・短答式に比べて30ポイント近く低く、筋道を立てて考えを説明することに課題がある。

## 《傾向》

- 算数に関するすべての質問において、肯定的な回答の割合は市の平均より低いが、全国平均よりは高いものが多い。「算数の勉強が好き」と回答した児童の割合は、全国平均と比べて質問の中で最も高い。
- 「問題を解くとき、もっと簡単な方法を考える」「問題の解き方が分かるようにノートに書いている」と回答した割合は、市の平均よりも特に低く、全国平均よりも低くなっている。
- 「わけや求め方を書く問題」について「途中であきらめたものがあった」と回答した児童の割合が38.3%あり、全国平均より10%高い。
- 算数Aの解答時間が「やや足りなかった」、算数Bの解答時間が「全く足りなかった」と回答した割合が、全国平均より高い。

## 指導改善のポイント

## 【数と計算】

- ・ 数の構成について図や具体物を用いて理解できるようにする。また、数を十・百・千などを単位としてみたり、一つの数をほかの数の和・差・積などとしてみたりするなど数を多面的にみる見方を低学年から育て、数についての感覚を豊かにする。
- ・ 概数について実生活においても必要なことを意識させ、目的に応じて用いることができるようにする。

## 【量と測定】

- ・ 三角形の底辺や高さの理解を確実にするため、様々な三角形の図に底辺と高さをかき込ませ、底辺をどこにとるかで高さが決まること、底辺をどこにとっても面積は同じであることを確認させる。また、底辺と高さが垂直になっていることを確認する活動を繰り返し行って定着を図る。

## 【図形】

- ・ 三角形の内角の和が180度であることを確認するために、いろいろな三角形を調べて説明する活動を行う。また、図をかいて四角形の内角の和の求め方を説明する活動を行う。これらの活動を通して、筋道を立てて考えることに興味をもたせたり、筋道を立てて考えることよさに気付かせたりする。

## 【数量関係】

- ・ 図や数直線に表して、基準量（もとにする量）、比較量（比べられる量）、割合の関係を考え、百分率を使って問題を解決できるようにする。また、日常生活の中で割合の考え方を活用する場面が数多くあることを取り上げ、百分率を求めて比較したり、大小を判断して理由を説明したりする活動を行う。

## 【その他】

- ・ ノート指導を充実し、考えた過程を書くことと問題の解き方が分かるような書き方の指導を継続的に行う。
- ・ 自分の考えを言葉や式、図など様々な方法で表現するように指導するとともに、友達同士で話し合ったり説明し合ったりする場を意識して設け、表現・処理する能力や関心・意欲を高めるようにする。

### 3 児童質問紙調査

●…課題があるもの

#### 《傾向》

- 家で学校の授業の予習・復習をしていると回答した割合は、全国平均よりやや低いが、テストで間違えたところを家で勉強していると回答した割合は、全国平均より高い。
- 学校の授業以外の勉強時間が1時間以上であると回答した割合は、平日・休日ともに全国平均より低く、50%に満たない。
- 学校図書館や地域の図書館へ月に1回以上行くと回答した割合は全国平均より高いが、1日あたりの読書時間が30分以上と回答した割合は、全国平均より低い。
- 1日あたりのテレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしている時間が2時間以上と回答した割合は全国平均より低く、半数近くが2時間より少ない。
- 携帯電話を持っていると回答した割合は全国平均よりやや高く、通話やメールをしている割合もやや高い。
- 家の人と朝食や夕食を一緒に食べていると回答した児童の割合は全国平均より高いが、家の人と学校での出来事について話をしていると回答した割合は、全国平均より低い。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」と「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が、全国平均より低い。